

インマヌエル中目黒キリスト教会

2013年3月17日 聖日礼拝

受難節の霊想

「自分の命を死に明け渡し」

イザヤ書53章7－12節

ヨハネの福音書12章1－8節

竿代 照夫 牧師



聖書朗読

旧約聖書

イザヤ書53章7－12節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

訂正箇所：7節

第二版の聖書はp1114~/ 第三版の聖書はp1214~

- 7 彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。
- 8 しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。
- 9 彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかったが。

- 10 しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら、彼は末長く、子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。
- 11 彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう。

12 それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け
与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかち
とる。彼が自分のいのちを死に明け渡し、
そむいた人たちとともに数えられたからであ
る。彼は多くの人々の罪を負い、そむいた人
たちのためにとりなしをする。

聖書朗読

新約聖書

ヨハネの福音書12章1-8節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp204~/ 第三版の聖書はp203~

- 1 イエスは過越の祭りの六日前にベタニヤに来られた。そこには、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロがいた。
- 2 人々はイエスのために、そこに晩餐を用意した。そしてマルタは給仕していた。ラザロは、イエスとともに食卓に着いている人々の中に混じっていた。
- 3 マリヤは、非常に高価な、純粹なナルドの香油三百グラムを取って、イエスの足に塗り、彼女の髪の毛でイエスの足をぬぐった。家は香油のかおりでいっぱいになった。

- 4 ところが、弟子のひとりで、イエスを裏切ろうとしているイスカリオテ・ユダが言った。
- 5 「なぜ、この香油を三百デナリに売って、貧しい人々に施さなかったのか。」
- 6 しかしこう言ったのは、彼が貧しい人々のことを心に掛けていたからではなく、彼は盗人であって、金入れを預かっていたが、その中に収められたものを、いつも盗んでいたからである。

- 7 イエスは言われた。「そのままにしておきなさい。マリヤはわたしの葬りの日のために、それを取っておこうとしていたのです。」
- 8 あなたがたは、貧しい人々とはいつもいっしょにいるが、わたしとはいつもいっしょにいるわけではないからです。」

説教

受難節の霊想

「自分の命を死に明け渡し」

イザヤ書53章7－12節

ヨハネの福音書

12章1－8節

竿代 照夫 牧師



A. 注ぎつくす愛 (イザヤ書53章)

1. イザヤ書53章の成り立ち

- 前半：苦しみを担う僕 (52:13-53:6)
- 後半：僕の内面の苦しみ (53:7-12)

2. 忍従の僕として (7節)

- 屠り場に引かれて行く羊
- 目的を持った忍従：
「主の民のそむきの罪のため」

3. 注ぎつくす僕として (12節)

- 自分をからっぽにする
- 「死に明け渡し」との意味：
「自分の持っているもの全てを与える愛」

B. 主の愛に呼応したマリヤ

(ヨハネ福音書12章)

1. 場所はベタニヤ村

- ・ベタニヤ村:
 - 「悩む者の家」
 - 「貧しい者の家」
- ・シモンとその子ども達
 - マルタ
 - マリヤ
 - ラザロ



2. マリヤの行動

- ・注いだのはマリヤ
- ・ナルドの香油：寒冷地に生える棘状の
草の根を絞ったもの
- ・石膏の壺
- ・イエスの頭と足に
- ・香油の価値：一年の平均収入に相当

3. ユダの非難

- 建前の非難：貧しい人々に 施すべき
- 非難の本音：懐にくすねるため

4. イエスの弁護

- 葬式の備えだ
- 注ぎつくす愛への応答

おわりに

- ・注がれている愛の大きさを感謝しよう
- ・そして、私たちも！